

## 平成27年 市職員への年頭訓示

みなさん、新年あけましておめでとうございます。

新しい年を、みなさんも清々しい気持ちで迎えられたことと思います。

今年の干支は、「乙 未」です。

「乙」は「木陰」、「未」は「夏季の温もり」を意味し、「熱き思いを内に秘めても表に出さずに 平穏に周囲をまとめあげることができる」とも言われています。

皆さんには、今年の干支のように熱き思いを内に秘めつつも、課題解決に向けて全力で職務に取り組んでいただきたいと思います。

さて、昨年を振り返りますと、台風11号の襲来に備えて、本市では、初めての避難勧告を行いました。幸いにも、職員はもとより、各地域や消防団、市建設業協会など多くの方々にご協力をいただき、人的な被害がなく、胸を撫で下ろしたところです。

常日頃から有事を想定し、業務でも、日常の生活においても、備えを進めていただきたいと思います。

さて、日本創生会議が昨年発表しました「将来において全国の約半分の自治体が消滅する可能性がある」とのショッキングな試算において、木津川市は府内で唯一 人口が増加する 自治体との評価がなされました。

このことは、合併後8年間 皆さんがそれぞれの職場、立場で課題解決に向け、全力で職務を全うしていただいたお蔭であると、心より感謝いたしています。

市民の皆さまからは、きびしいご意見もいただきますが、うれしい意見も多く戴くようになりました。

これは、皆さんが日頃から市民の皆さまを大切にいただいている証しであると実感いたしております。

しかしながら、この人口推計は、あくまでもある仮定の下での試算にすぎず、将来においても人口が減少しないまちづくりに努めなければなりません。

そのためにも、職員の皆さんには、今後も対応力や、問題解決力、そして創意工夫する力を高め、「市民満足度の高い活力ある木津川市を自分たちが創っていく」という気構えと向上心を常に持ち、何事にもプラス思考で、チャンスを見逃さず、前向きに、日々職務に専念していただきたいと思います。

今年、木津川市発足から9年目に入り普通交付税合併算定替えによる満額の交付が受けられるのも、この平成27年度までとなります。

今後5年間で徐々に 普通交付税が 減額されていくことを 踏まえれば、第2次行財政改革大綱及び行動計画に基づく取り組みをより一層進め 子や孫の世代に 健全財政のまち を引き継ぐという、市民の皆様の負託にも応えていかねばなりません。

職務に追われ、忙しいとは思いますが、これまでのように日々仕事を全うしているだけでは、必至に生き残りをかけて動き出した他の市町村に取り残されてしまいます。

これまでの仕事に更に5年、10年先を見据え、まちの財政をどう活用し、活性化していくには、何が出来るか常に考え取り組んでいただきたいと思います。

大きな課題ではありますが、私自身も職員のみなさんと一緒になって、この難局を乗り越えてまいりたいと考えております。

結びに、今年が 皆さんにとりまして幸多い年でありますように、そして市の更なる飛躍を祈念いたしまして、年頭の訓示といたします。

平成27年1月5日

木津川市長 河井 規子